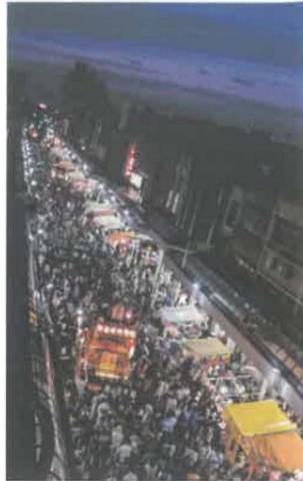


吉原祇園祭縁起

おてんのさん

吉原祇園祭は、天神社、木之元神社、八坂神社、八幡宮、山神社、和田八幡宮の六社合同で開催されるお祭りで、地元では「おてんのさん(天王祭)」とも呼ばれ親しまれています。



東海一の祇園 かつて東海道の宿場町「吉原宿」だった吉原本町通りを中心に約1km、200軒以上の露店が軒を連ね、20万人の人たちがこの2日間に集中します。

宮太鼓(お神だりこ)

元々は、神輿が来ることを町内の若衆に知らせる太鼓なので「呼び太鼓」とも言い、小桴(こばち)の刻む一定のリズムに合わせて、主役の大桴(おおばち)が自由に、力強く太鼓を打ち鳴らします。

太鼓自慢の腕の見せどころ

綿密に演目を準備して披露する叩き手もいれば、その時に降りてきたものを思いつくままに表現する叩き手も。叩き手によって変わる音色は、一つとして同じものはありません。息のあった二人の勇壮なパチさばきは一見の価値あり!



土曜日 16時すぎから、吉原本町通りで三ヶ所に分かれて行われます。

神輿(おこし)

荒々しいけんか神輿 荒神(すさのおのみこと)の神輿だけに、「けんか神輿」と異名をとるほど荒っぽい神輿で、隣り合った神社の境界に踏み入ることは御法度。危険ですから、あまり近寄らない方が良いでしょう。

笹神輿 神輿の姿が埋もれてしまうほど山のように笹を取り付けるのが、吉原の神輿の特徴です。この笹を抜き取り輪にして家の軒先に飾ると厄払いになるという言い伝えがあり、青年は神輿巡行を終えると神輿から笹を抜き取っていきます。

神輿を「揺する」 吉原では、神輿は「担ぐ」ものではなく「揺する」と言う町内もあるように、辻や町境では言葉通り、神輿を激しく揺ります。こうした境界は災厄をもたらす神や病魔などが出入りする空間のため、そこで神輿を激しく揺すり、災厄を防ぎ祓うのです。



山車(だし)

21台の様々な山車 吉原祇園祭では、高欄型、江戸型山車や舞台屋台、全国的にも珍しい吉原雛壇型など、様々なかたちの山車が揃います。山車同士のすれ違いでは、相手に負けまいと強烈な音で太鼓や鉦を打ち鳴らし、町中を清めます。

華やかな夜祭 夜の曳き回しの時間になると、提灯に明かりがともり、山車は一層華やかさを増します。21台の山車が約1kmほどの本町通りに集まる様は圧巻です。ライトアップされた美しい彫刻、響くお囃子の音、吉原の街は若い衆の熱気に包まれます。



天神社
てんじんしゃ



1 本町一
ほんちよう



8 六軒町
ろっけんちよう



9 西本通り
にしほんどお



八幡宮
はちまんぐう



17 東本通三
ひがしほんどお



2 本町二
ほんちよう



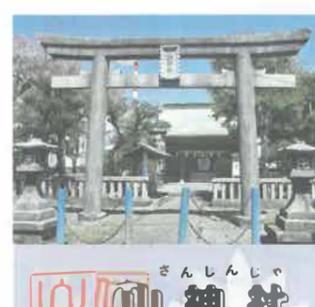
3 本町三
ほんちよう



10 住吉町
すみやきちよう



11 昭和通り
しやうわどお



山神社
さんしんしゃ



18 依田原二
よだはら



4 南町
みなみちよう



5 宮町
みやちよう



12 目吉町
ひよしちよう



13 傳馬町
てんまちよう



19 依田原三
よだはら



20 依田原四
よだはら



6 大和町
やまとちよう



7 幸町
さいわいちよう



14 西仲町
にしなかつちよう



15 新追町
しんおいちよう



和田八幡宮
わだはちまんぐう



21 和田町
わだちよう